

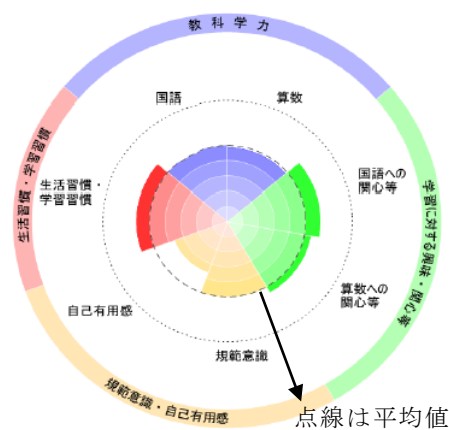
全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

平成31年4月に小学校6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけるようお願いいたします。

1 調査結果の概要



教科学力

国語の学力については、「読むこと」が6ポイント、「話すこと・聞くこと」が2ポイント平均値を上回り、反対に、「書くこと」が2ポイント、「言語についての知識・理解・技能」が8ポイント平均値を下回った。

算数の学力については、学習領域の観点から見ると、「数量関係」「数と計算」領域が平均値を上回り、「量と測定」領域が平均値を下回った。また、資質・能力の観点から見ると、「数量や図形についての知識・理解」の観点では平均値を上回り、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」の観点では平均値を下回った。

学習に対する興味・関心等

国語、算数共に学習への興味や関心が平均値を上回っている。国語の傾向としては、国語の学習が好き、授業が分かると実感している児童が平均値を10ポイント以上上回っており、学んだことを生活の中で活用しようとしている児童も多かった。

算数の傾向としては、算数の学習が好き、算数の学習が大切と感じている児童が平均値を3ポイント程度上回っている。一方で、どちらかといえば好きでない、どちらかといえば授業の内容がよく分からないと感じている児童が平均値を3ポイント程度上回っている。

規範意識・自己有用感

規範意識については、全体としては平均値と同等の意識であった。その中で、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童が平均値より多く、反対に学校のきまりを守っている児童は平均値を2ポイント程度下回った。

自己有用感については、全体的に低い意識が見られた。「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標をもっている」の3つの質問について否定的にとらえている児童が多かった。

生活習慣・学習習慣

生活習慣については、規則的な就寝・起床時刻、毎日の朝食の摂取などの様子から規則正しい生活習慣が送れていることが分かった。

学習習慣については、自分で計画を立てて家庭学習を行っている児童が平均値を上回っていた。

2 本校児童の課題及び今後の取り組み

【今回の調査で見えてきた課題】

《国語科》

- ・調べたことを報告する文章を作成するときに、より分かりやすく伝えるために関係する図表やグラフなどを適切に用いて構成を工夫して書くこと。(書くこと)
- ・文章の内容に合った漢字を正しく書くこと。(言語についての知識・理解・技能)

《算数科》

- ・グラフなどの資料から分かる特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの量の増減を判断し、その理由を考えること。(量と測定・数学的な考え方)
- ・整数や小数が混合した加法と乗法などの四則計算を正確にすること。(数と計算・数量や図形についての技能)

《生活面》

- ・集団の中で、学校の約束やきまりなどを自分から守る意識を高めること。
- ・教師をはじめ、他者から称えられたり、認められたりするなどして自己有用感を高めること。
- ・将来の夢や目標をもち、前向きな気持ちで意欲的に生活すること。

【今後の取り組み】

《学習面》

- ・特に算数科を中心に、基礎・基本の確実な定着を図る学習活動を行うことで、どの子どもも授業が楽しい、もっと学びたいという思いをもてるような授業づくりをめざし、学校全体で改善に努める。
- ・自分の考えや図表やグラフなどの資料から読み取れることなどを話して伝えるだけでなく、より多くの言葉で書き表す活動を様々な教科や場面で意図的に設ける。
- ・語彙力や文章構成力を高めるために、朝の読書タイムや読み聞かせを中心に文章にふれる機会を多く設ける。また、各教科での言語活動の取組みを通じ、語彙力や文章構成力を高める環境を整備する。
- ・算数の授業を通じて、既習事項をもとにして問題解決の見通しをもったり、具体物を操作したりして、自分なりの考えをもつための道筋を立てられるようにする。
- ・週1回(金曜日)の「スキルタイム」を今後も全学年で重点的・系統的に力を入れ、計算技能の定着・向上を図る。

《生活面》

- ・道徳の時間や日常生活の中で規範となる行動について考えたり、自分の行動を振り返る場面を設けたりして規範意識の向上を図る。
- ・授業や様々な活動の中で、子ども同士がお互いのよい所やがんばりを伝え合う活動を設けたり、教師は、子どもの様子をていねいに見とり、がんばりや成長を積極的に称賛したりする。
- ・生活科や総合的な学習の時間を中心に多くの人とかかわる中で、自分の将来について見つめ、考える機会を意図的に設け、児童が将来の夢や目標をより具体的にもてるようにする。